

「神」が「創造主」と訳されていたら

堀越暢治 いのちありがとうの会・代表



...「君は不服かね？」

私は群馬県の桐生市の片隅にあった神社の神主の次男として生まれました。朝は父の神社のお勤めの音で目が覚めたのを今でも覚えています。

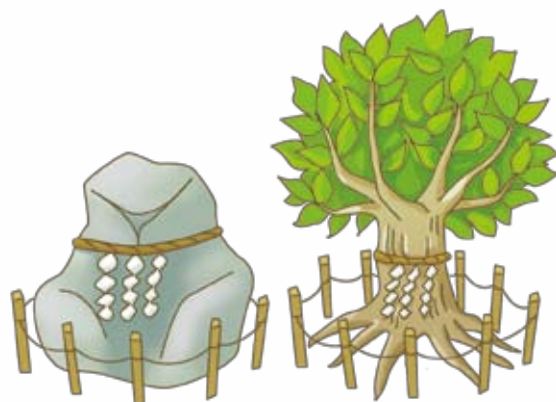
その私がキリストを信じました。きっかけは、宇都宮で賀川豊彦先生の「神が天地を造られた……」という演説を聞いたことでした。

その時、日本は戦争に敗れたため、私は「何!? 神が天地を造った!? 日本が戦争に勝てるように神社で拝まされた。勝てるはずが負けたではないか。あんなもの神でたまるか!」と神が天地の創造主だということに対し激しい拒絶反応を覚えました。

私は演説が終わると、賀川先生のところへ行き、「先生! 神が天地を造ったなんてとんでもない。ウチのオヤジとボクで神様のご神体を作って祈っていた。……なのに戦争に負けたじゃないですか!」と抗議しました。先生は「君は不服かね?」といわれ、「ええ不服ですよ」と先生の家まで行って抗議したのです。しかし、これが私と聖書の出会いとなりました。

日本の神と聖書の神

私はその後、聖書を本格的に学んで聖書の神と日本語の神は全く違うことを知りました。神概念が全く



違うのです。聖書が神のことを「唯一絶対の創造主」と教えていることが分かり、私はキリスト信者になりました。

私はその後、神学校を卒業して四日市の教会の牧師としてスタートしました。今から50年ほど前のことです。因習の深い地域でした。そこで「私は牧師ですが、神様を信じませんか?」と言うと、「神様は信じていますよ」と答えが返ってきました。

「あっ、皆さんが信じている神様ではなくて、天地を造った神様です」と言う「世界を造った神様じゃなくて、神は山にも岩にも、木にも何にでも宿っている。山が山にしか見えない者は気の毒だ」と反発されました。誰に話しても同じような反応でした。

そこで日本の神という言葉調べてみると、日本語の神は「超自然の創造主」「唯一である」という考え方を持っていないことが分かりました。



「神」という訳語

日本のキリスト教会はこの方の名をどう訳したらよいかと困ったようです。明治になって聖書を翻訳する際いろいろな候補があったようですが、なかなか決定できず最後に投票で決め、1票差で「神」になったといわれています。

以来百数十年、キリスト教会は「神」を使用して、意味の読み替えをしてきましたが、周知の通り伝道の成果は上がりませんでした。

私は、「創造主と偶像の神が全く同じ文字・発音では困るな～、伝わらないな～」と考えるようになりました。そして自分が使うときには聖書の引用は「神(創造主)」と表記し、自分の文章では「創造主」と書くようにしました。また、人体のことや大自然のことを詳しく調べていくうちに、この創造主の知恵と力のものでござに圧倒され、自分がそんなにすごい知恵と力によって存在させられていることに感動を覚えました。

そして、「このお方は日本の神では表せない! 全く違うお方だ」と考えさせられ、聖書の引用でも「神」を用いないで「創造主」を使うようになりました。

「創造主」とお呼びすることで…。

「創造主」とお呼びすることは、内容と表現が一致します。「創造主」とお呼びすることにより、自分が創造された者であることが自覚できます。このことは単に呼び名を変えただけだけでなく、とても大切です。

私が、四日市に来た翌年から幼稚園を始めて50年ほど続いています。そして、子どもたちに「人間は進化ではなく創造されたものだ」と教えることに努めてきました。その場合「創造主」という表現を用いてきました。その結果、聖書の神は創造主なのだとはっきり分かり、信仰へ導かれた子がたくさんいます。

創造主訳聖書

人間の世界でも呼び名は大切です。間違った名で呼ぶことは失礼ですし、返事もしてもらえません。聖書は、人が救われる名は一つだと言っています。呼び名をふさわしくすることは、救いや信仰の態度に関する重要な問題だと考えるのです。

もし、日本語の聖書の「神」が「創造主」と訳されていたら、日本の宣教地図は大きく変わっていたと私は思っています。

今年、私が長年実現したいと願っていた「創造主訳聖書(旧新約)」が私も委員として参加している創造主訳聖書刊行会から出版されることとなります。この聖書が伝道に用いられ、日本人の神概念を変え、日本のリバイバルの大いなる助けになることを心から願っています。

『創造主訳聖書』表紙

